

県立総合病院および県立小児保健医療センターの統合について

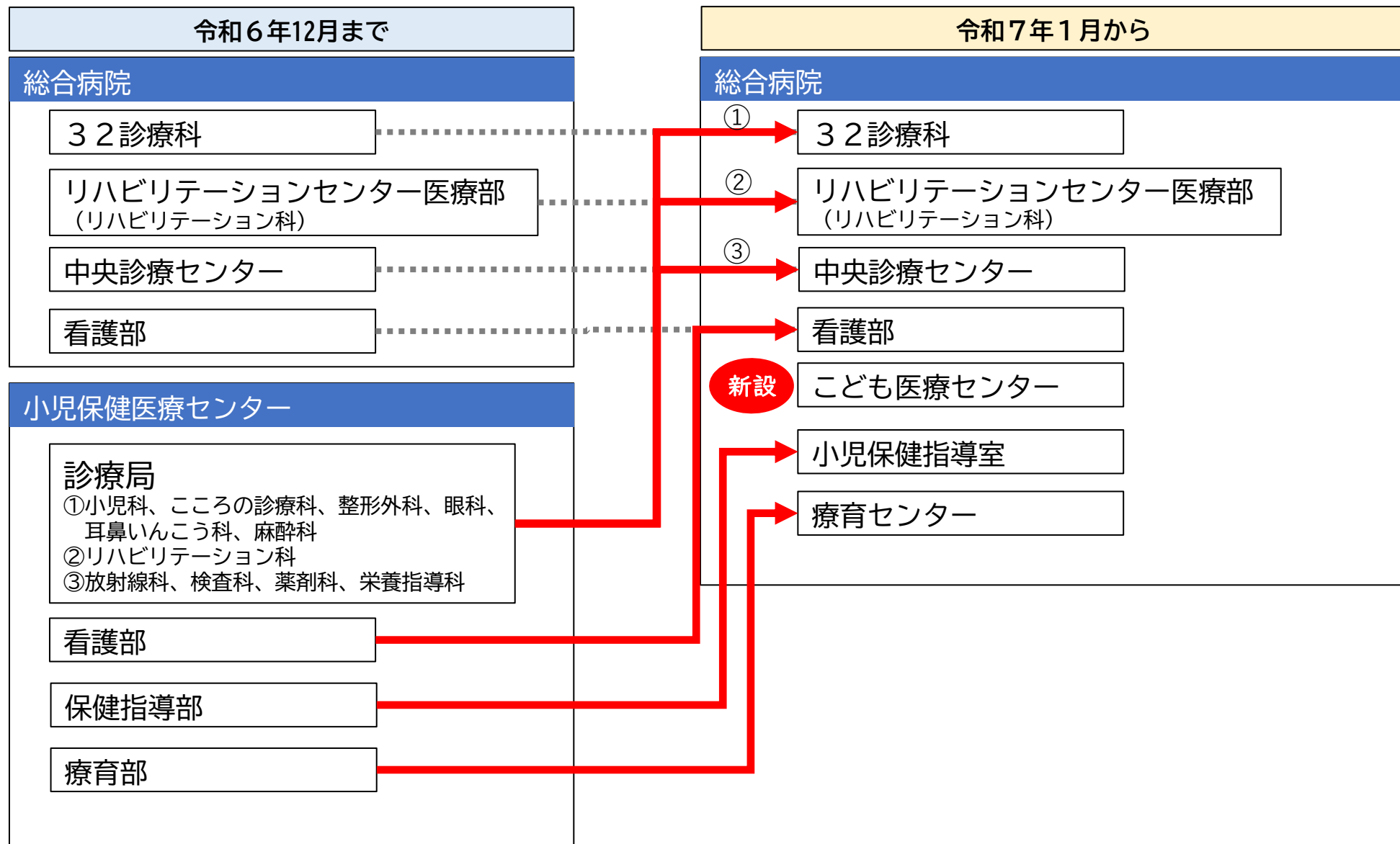
概要

- ・令和7年1月1日に滋賀県立総合病院と滋賀県立小児保健医療センターは統合し、新しい「滋賀県立総合病院」となりました。
- ・総合病院が充実させてきた「がん診療」や、小児保健医療センターが小児専門病院として担ってきた「難治・慢性疾患の治療」はしっかりと継続し、これまで以上に診療科間、部署間の連携を深め、高いレベルの医療を実現します。

統合に伴う組織改編について

- ・統合後、重症心身障害児等に対する専門的医療を推進する組織として「こども医療センター」を設置します。
- ・総合病院と小児保健医療センターの診療科を整理・統合し、子どもから大人まで切れ目のない安心・信頼・満足の得られる高度専門医療の提供を推進します。

組織改編について



小児保健医療センターの診療科の呼称について

令和6年12月まで		令和7年1月から	
小児科	総合内科	→	小児総合内科
	神経内科	→	小児神経内科
	アレルギー科	}	小児免疫アレルギー科
	リウマチ科		
	内分泌・代謝・糖尿病科	→	小児内分泌代謝糖尿病科
	発達外来	→	小児発達診療科
	心臓内科	→	小児心臓内科
	腎臓内科	→	小児腎臓内科
	遺伝科	→	小児遺伝診療科
	精神科（こころの診療科）	→	小児こころの診療科
	整形外科	→	小児整形外科

令和6年12月まで		令和7年1月から	
小児外科		→	小児外科
眼科		→	小児眼科
耳鼻いんこう科		→	小児耳鼻いんこう科
リハビリテーション科		→	小児リハビリテーション科
小児専門外来	泌尿器科外来	→	小児泌尿器科
	形成外科外来	→	小児形成外科
	脳神経外科外来	→	小児脳神経外科
	頭痛外来	→	小児神経内科
	ダウン症外来	→	小児遺伝診療科
	肥満外来	→	小児内分泌代謝糖尿病科
	発達支援機関紹介外来	→	小児発達診療科

建物の名称変更について



滋賀県立総合病院と

滋賀県立小児保健医療センターが 統合しました!

令和7年
1月1日

総合病院イメージキャラクター
びわすん

小児医療の充実

子どもから大人まで
高度専門医療を提供

医療人材の
確保・育成

総合病院こども棟(旧小児保健医療センター)

笑顔で患者に寄り添い、チームで取り組む姿勢を基本とし、
子どもから大人まで 安心・信頼・満足の得られる、高度かつ専門的な医療を実現します!

interview

子どもから大人まで、とぎれることのない医療を

県立総合病院は、小児保健医療センターと統合することで、重度の障害や慢性疾患の患者さんが20歳を過ぎても、今までの小児の主治医がいる同じ病院内で、例えば心筋梗塞や糖尿病といった成人の専門医が診療する「移行期医療」の体制が整います。小児病院との統合で、全国に先駆けたロールモデルとなることを目指します。



これまで小児保健医療センターが行ってきた医療に加わるだけでなく、幅広い年齢層の救急患者を受け入れたり、最新のがん治療を取り入れたりするなど、県民に頼られる病院として一層の充実を図ってまいります。

滋賀県立総合病院
総長・病院長 足立 壮一さん

統合後の強み・特長

- ✓がん診療
- ✓小児専門医療
- ✓急性期医療
- ✓難治・慢性疾患の治療
- ✓新興感染症対応
- ✓アレルギー疾患の対策

こども医療センターを新設!

子どもを真ん中に置いた医療・保健サービスの維持・充実を図るため、「こども医療センター」を新設しました。引き続き県民の皆さんや病院の利用者から安心・信頼・満足の得られる、より充実したサービスを提供していきます。

病院統合 Q&A

Q それぞれの病院のこれまでの医療やサービスはどうなりますか?

A がん診療などの高度専門医療や子どものための医療・保健サービスなど、それぞれの病院が担ってきた役割・機能を確実に引き継ぎ、さらに充実・強化します。

また、地域に必要な病床数を確保し、今後も県民の皆さんに期待される医療を提供します。

Q 病院統合によって患者にどんなメリットがありますか?

A 病院の統合によって、診療できる疾患の拡大や障害児の成人後の対応強化が図れます。

また、施設を集約化することで、夜間・休日の体制強化、高度急性期医療に対応した施設や機器等の利用など、医療の充実や安全性を強化できることが大きなメリットです。

お問合せ 総合病院 病院統合準備室 TEL 077-582-8019

FAX 077-582-5931 e nb01@pref.shiga.lg.jp

統合に伴う変更点など、
YouTubeで詳しく解説しています。

病院公式YouTube→



滋賀県立総合病院の **今** をお届けします

ふれあいHeart



vol.53

2024年12月発行

特集1

小児保健医療センターと統合します

2

お知らせ

電子カルテシステム更新に伴う
救急外来の受入れ停止について

6

特集2

新たな一歩へ！
生まれ変わる放射線治療センター

7

特集3

第16回
滋賀県がん医療フォーラムのお知らせ

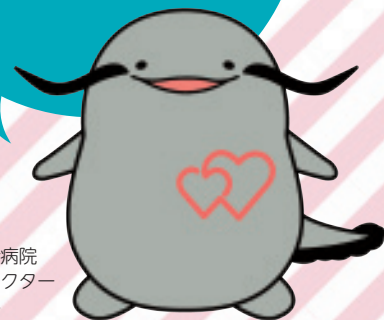
12

基本
方針

心のふれあいを大切にして 安全で質の高い医療福祉を創生し提供する。

それが、私たちの
理念です

滋賀県立総合病院
イメージキャラクター
びわずん



小児保健医療センターと 統合します

2025年1月1日

滋賀県立総合病院と滋賀県立小児保健医療センターは 統合して1つの病院となります

小児保健医療センターの医療を引き継ぎつつ
総合病院として誰にでも親しまれる病院となります

新しい県立総合病院の理念・使命

小児保健医療センターとの統合にあたり、
私たちの基本方針（理念・指針）を見直しました。
今後は私たち職員の一人ひとりがこの基本方針に基づき日々行動します。

理念（コンセプト）

笑顔で患者に寄り添いチームで取り組む姿勢を基本とし
子どもから大人まで安心・信頼・満足の得られる高度かつ専門的な医療の実現

使命（ミッション）

- ・診療科の垣根を越え、多職種連携による高度急性期・専門医療を行うことで地域医療機関や患者からのニーズに応じて、最適な医療を持続的に提供する
- ・感染症対策や災害対応、救急医療や子育て支援などの県や国の政策にも連動し県立病院として中核的な役割を担う

病院統合によせて ～総長メッセージ～

2025年1月1日、私にとって待ちに待った総合病院と小児保健医療センターの統合が行われ、一つの病院になります。多くの医師、医療専門職員、事務職員が新たに仲間に加わることになり、ワクワクしています。

これまで小児保健医療センターでは、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科で滋賀県のみならず、近畿一円の難治・慢性疾患の子どもたちの治療を行っており、小児手術を支える麻酔科医もいます。総合病院と一つの病院になることで、小児難治・慢性疾患の子どもたちが大人になっても、今までの主治医とともに、主に成人患者を治療しているすべての診療科の医師との強い連携が可能になります。全国の小児病院の患者および御家族にとっての難問である移行期医療の取組が滋賀県で進むことになります。

また、小児科は組織統合にあたって、総合的な小児科に生まれ変わります。現在の小児科の強みである、難治性の重症心身障害を含む神経疾患、発達障害、内分泌疾患、アレルギー疾患の診療をさらに充実させつつ、総合病院の救急専門医も今後増員し、近い将来、小児救急への対応も強化します。

さらに、将来の小児科専門医プログラムの新設も見据えて、新たな小児専門医の招聘も検討しています。小児整形外科で行ってきた先天性股関節脱臼、ペルテス病等の手術、小児耳鼻科での先天性難聴の手術、小児眼科での斜視等の手術はいずれも全身麻酔下での手術であり、総合病院の手術体制を充実させてしっかりと行います。小児科専門医取得後、小児専門領域を学ぶために全国から集まるシニアレジデント制度も拡充し、多くの若手小児科医師を育成して滋賀県の小児科医療を支えたいと思います。

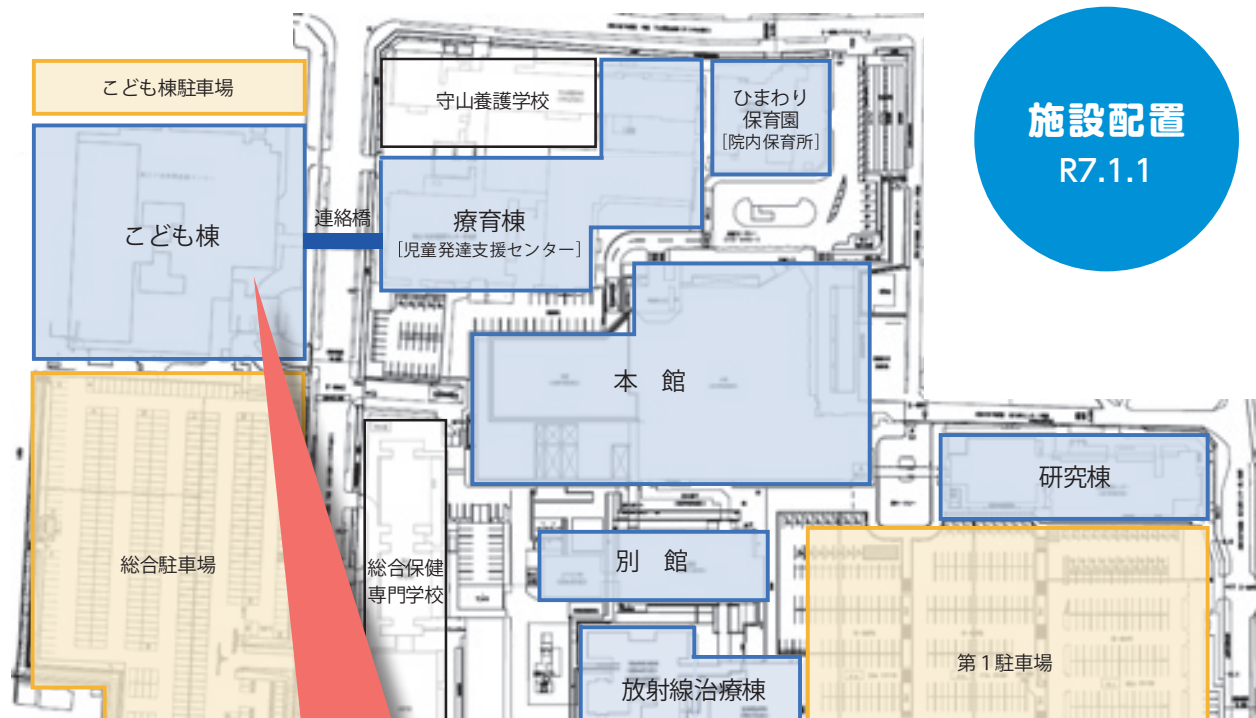
昨年4月の病院長着任以来、医師会をはじめ、地域の先生方との連携を強化し、紹介患者を決して断らないという方針で県立病院としての責務を全うしてまいりました。小児科医でもある私のミッションは、小児保健医療センターで行ってきた重症心身障害児・者や小児難治・慢性疾患への医療を継続しつつ、滋賀県の小児医療全体にさらに貢献することだと思っていますので、職員一同が一丸になって頑張っていきたいと思います。



総長・病院長
足立 壮一

こども棟（現小児保健医療センター）の 受診について

統合により建物の名称が変更となり、小児保健医療センターはこども棟となります。



施設配置
R7.1.1



こども棟
1階

こども総合受付

- こども棟の診療科を受診する患者さんは、こども棟のこども総合受付へお越しください。
- 初診の患者さんについては、原則15歳以下（中学生）をこども棟で診療します。
※一部の診療科は本館で診療することもあります。
- 当院では、患者さんの効果的な治療や安心と利便性の向上のため、地域の「かかりつけ医」と当院の専門医師が連携した診療の提供を進めています。
先ずは、「かかりつけ医」を受診していただき、専門的な検査や入院治療が必要と診断された場合は、当院へ紹介してもらい、受診されることをお勧めします。
※紹介状なしで当院を受診される場合、『初診時・再診時の 選定療養費』が必要となることがあります。

外来診療受付時間：8：30 ～ 11：00
診療開始時刻：9：00

部門／ブロック	A	こども薬局
	B	こども検査室
	C	小児総合内科、小児神経内科、小児遺伝診療科、小児免疫アレルギー科、小児内分泌代謝糖尿病科、小児発達診療科、小児心臓内科、小児腎臓内科、予防接種外来
	D	小児整形外科、小児外科、小児脳神経外科、小児泌尿器科、小児形成外科
	E	こども中央処置室
	F	こども看護外来
	G	こども放射線室（CT 室、MRI 室、一般撮影室、X 線テレビ室）
	H	小児眼科
	I	小児耳鼻いんこう科、一部小児形成外科
	J	こども心理相談室（小児こころの診療科）
	K	小児リハビリテーション科

Q & A

Q1 診察や検査を受ける場所や時間は変わりますか？

A1 統合後も小児保健医療センターの現在の建物を使って、外来・入院の診療を継続しますので、診療場所に変更はありません。

診療科名や場所の変更がある場合は、あらかじめHPや院内掲示でお知らせします。

病院統合に関する
お知らせ



Q2 診察券はそのまま使えますか？

A2 総合病院の診察券はそのまま利用できます。

総合病院と小児保健医療センターの両方の診察券をお持ちの患者さんは、総合病院の診察券に統一します。

小児保健医療センターの診察券をお持ちの患者さんは、そのまま利用できますが、必要に応じて新しい診察券を発行する場合があります。

Q3 これまでの診察や処方の情報などはどうなりますか？

A3 小児保健医療センターでの診療録、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録といったこれまでの診療記録は、総合病院に引き継がれます。

お知らせ

電子カルテシステム更新に伴う 救急外来の受入れ停止について

当院では、電子カルテシステムを含む医療情報システムの更新を予定しており、作業中は全システムが停止します。つきましては、患者さんの安全確保のため、救急外来での患者さんの受け入れを停止します。

皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

外来診療を停止する期間

2024/12/31 (火) 21:00 から 2025/1/4 (土) 12:00 まで

※小児保健医療センターのかかりつけ患者さんの急変等については、現小児保健医療センターで対応します。

診療を希望される場合は、こちらの番号におかけください。 Tel 077-582-6200

新たな一歩へ！ 生まれ変わる放射線治療センター

はじめに

このたび、老朽化していた放射線治療センターを新築し、放射線治療装置も順次更新していきます。これを機会に、県民の皆様当院の放射線治療について知っていただくため、特集を企画致しました。是非、最後までご覧下さい。



当院放射線治療の歴史

当院の前身である滋賀県立成人病センターは1970年に検診施設として開設され、その後1975年に成人病センターの附属病院として開設されました。1977年に放射線治療装置が導入され、悪性腫瘍の放射線治療が開始されました。当時、全国的には「コバルト」と呼ばれる外照射治療装置がほとんどであった時代に、いち早く先進的なX線治療装置を導入しました（図1）。

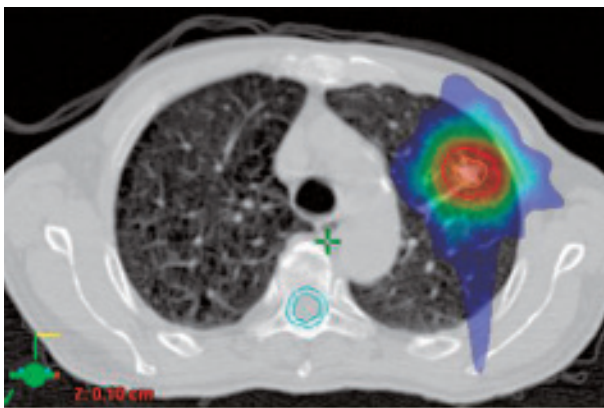


（図1）当時のX線放射線治療装置

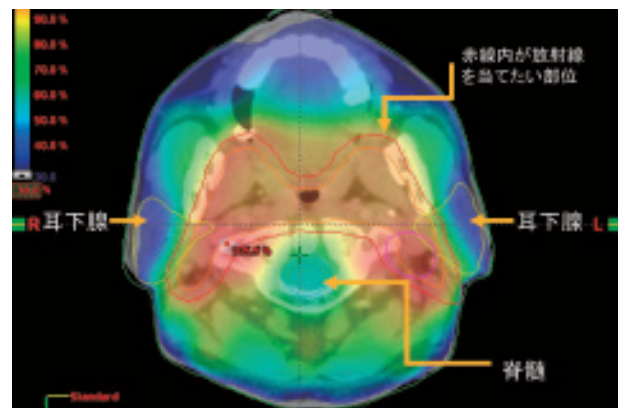
放射線治療の進歩と役割

近年、放射線治療技術の進歩はめざましく、効果が高くかつ安全で副作用の少ない治療が可能となっています。がん患者さんの治癒率や生存率は格段に改善していますが、手術療法や薬物療法の進歩とともに放射線治療も貢献しています。放射線治療といえば昔は手術や薬物療法ができない患者さんに対して症状を和らげるための「緩和的放射線治療」が主体でしたが、現在では放射線治療でがんを完治させることも可能です。化学療法（抗がん剤治療）を併用したり、手術の前や後に行う治療でより根治性（完治する可能性）を高めたりもしています。また、手術と放射線治療が同等の成績であると証明されているようながんの場合には、手術が可能であっても患者さんの価値観やライフスタイルにあわせて、放射線治療を選択される方もいらっしゃいます。

様々な治療技術の進歩がありますが、代表的なものが定位放射線治療（いわゆるピンポイント治療）（図 2）と強度変調放射線治療（図 3）です。



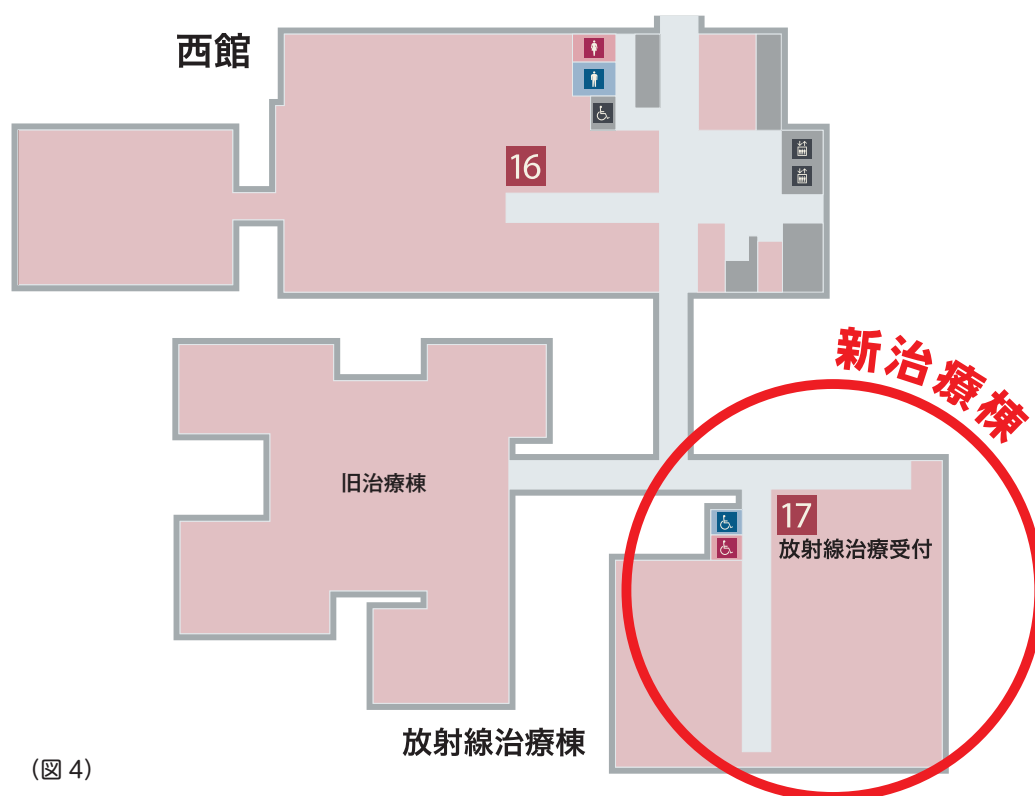
（図 2）肺がんに対する定位放射線治療
多方向から腫瘍部分にピンポイントで照射し、周囲の肺への副作用を最低限に抑えることができます。肝臓の腫瘍やその他様々な病変に応用しています。



（図 3）頭頸部がんに対する強度変調放射線治療
多方向から強度の異なる放射線を照射することで、正常臓器への線量を抑えながら腫瘍部分へ高線量を照射できます。赤に近いほど高線量で青に近いほど低線量が照射されています。耳下腺や脊髄などの重要な正常臓器には高線量が当たりません。

新しい放射線治療センター

老朽化していた放射線治療センターの建物を、隣接する場所に新築しました（図 4）。そして、放射線治療計画 CT、2 台の X 線放射線治療装置、密封小線源治療装置を新しい建物内に順次入れ替えて運用していきます。来年の 5 月頃までは、新旧 2 つの治療棟を使用しながら完全な移設に向けて準備していきます。



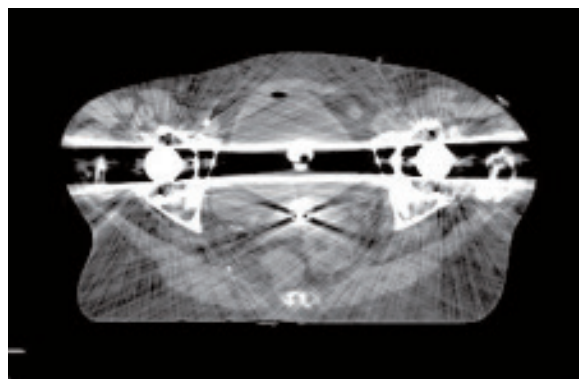
(図 4)

新しい放射線治療装置とその機能

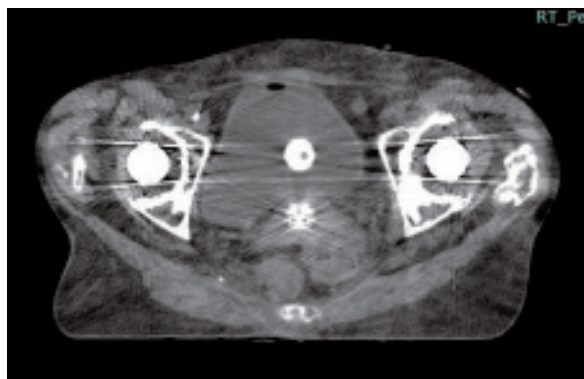
①放射線治療計画 CT (SOMATOM go.Sim)

現在の放射線治療においては、治療計画（放射線の当て方や当てる量を決める）が必須となっています。良質な CT 画像はよい治療計画の基本です。今回導入した CT では、金属によるアーチファクト（画像の乱れ）を補正するソフトが導入されており、精密な治療計画に役立ちます（図 5）。

(図 5) 金属アーチファクトの例 両側股関節に金属の人工関節のある患者さん



旧治療計画 CT ではアーチファクトで周囲の臓器詳細が不明瞭になっている



新治療計画 CT ではアーチファクトが低減している

② X線放射線治療装置 1 (TrueBeam)

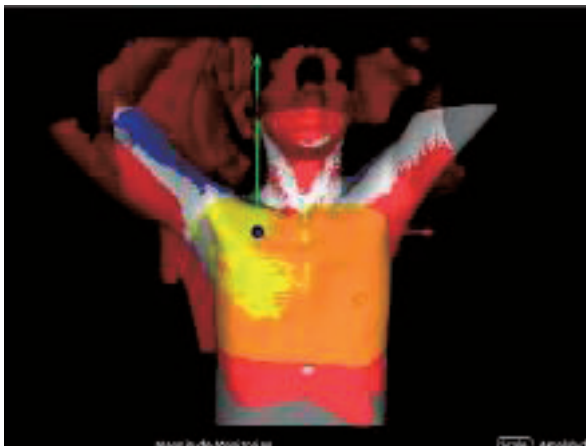
10月から稼働開始した外照射放射線治療装置です。X線と電子線の治療を行います。精密な治療を行えるだけでなく、広い範囲への放射線治療が可能で汎用性の高い装置です。これまでの装置より強度変調放射線治療において、短時間での治療が可能になりました。また多数個の転移性脳腫瘍に対して複数個を短時間で同時に治療することが可能になります(図6)。



(図6) 新X線放射線治療装置 TrueBeam

③体表面画像誘導放射線治療装置 (IDENTIFY)

②の放射線治療装置に配備されました。光を用いて皮膚面で患者さんの体位を正確に再現します(図7)。



(図7) 体表面画像誘導放射線治療装置 (IDENTIFY) 体表面で位置を正確に合わせる
黄色い部分がきちんと合わせたい関心領域であり、皮膚面で合っていないと赤や青で表示される
左は位置が合っていない状態 右は位置を調整してあっている状態

④密封小線源治療装置 (フレキシトロン HDR)

放射線同位元素であるイリジウム-192(放射線を出す物質)をコンピューター制御でがん病巣のすぐ近く、またはがん病巣内に送り込んで、高線量の放射線を照射する事ができます。子宮頸がんなどの婦人科腫瘍で多く用いています。さらに、がんの内部に針のついた管を刺入して行う、組織内照射を開始していきます(図8)。



(図8) 密封小線源治療装置
(フレキシトロン HDR)

⑤ X線放射線治療装置2 (OXRAY)

来年5月の稼働開始に向けて準備しています。唯一の国産放射線治療装置であり、現在稼働または稼働準備中施設はまだ数施設のみで、滋賀県では初の導入となります。現有の治療装置では患者さんの寝台を動かして治療していますが、この装置では放射線を出す部分が動いて治療します。また、肺や肝臓などの動く臓器に生じているがんに対して、病巣を追いかけてながら照射する‘動体追尾照射’が可能になります(図9)。



(図9) X線放射線治療装置2 (OXRAY)

安全で安心な放射線治療を提供します！

最新の治療装置を導入しても、それを運用する医療スタッフの努力なくしてはうまくいきません。私たちは患者さんの安全な治療の遂行に全力をあげて取り組んでいます。装置を故障なく運用するためには日々の点検や整備が非常に重要で、医学物理士や診療放射線技師が尽力しています。また、安心して治療を受けて頂くために、医師・看護師だけでなく医師事務補助員や受付事務員などもチームの一員として患者さんやご家族に寄り添います。

放射線治療専門医	3名
医学物理士	2名
放射線治療専門医学物理士	1名
放射線治療品質管理士	1名
診療放射線技師	8名
医学物理士有資格者	1名
放射線治療品質管理士	2名
放射線治療専門技師	2名
看護師	3名
がん放射線療法認定看護師	1名
医師事務作業補助者・受付	3名

おわりに

がんの治療中・療養中の方だけでなく、手に取っていただいたすべての皆様におかれましては、がんの治療に「放射線治療」という選択肢があることを頭のかたすみに置いていただければ幸いです。

放射線治療に関係する設備や保守費用は非常に高価です。私たちは滋賀県民の財産として大切に運用してまいりますので、もし必要な状況になりました際には是非ご利用頂きますようお願い申し上げます。

滋賀県がん医療フォーラムのお知らせ

がん患者様、ご家族の方、一般の方、医師・医療従事者ほか、どなたでもご参加いただけます。

テーマ：あなたらしい‘がん’との向き合い方

開催日：令和7年2月22日(土)

時間：13時30分～16時00分(13時00分より受付)

会場：栗東芸術文化会館 SAKIRA (さくら)「中ホール」
(栗東駅前：栗東市縄二丁目1番28号)

定員：約380名 **参加無料**

目的：がん医療に係る正確で有用な情報を県民の皆さんや医療関係者などに幅広く提供する。

※公演時間につきましては、変更になる場合がございます。

申込方法

しがネット受付
サービス



特別講演 (14:55～15:55)



闘病体験記

～悪性リンパ腫ステージ4からの寛解～

フリーアナウンサー **笠井 信輔**

基調講演 (13:35～14:20)



気持ちがラクになる がんとの向き合い方

公益財団法人がん研究会 有明病院 院長補佐 **高野 利実**

講演 (14:25～14:40)



Well-being

～3つのがんを経験して、
私にとって生きるとは～

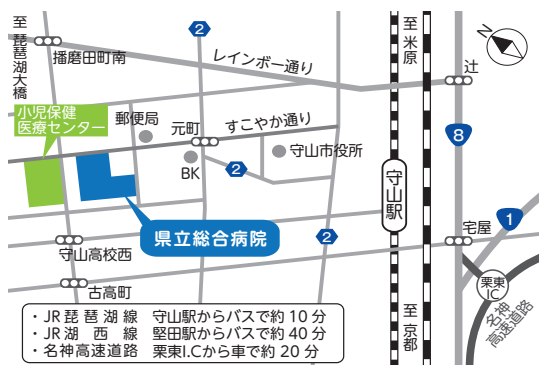
乳がん患者会「あけぼの滋賀」会員 **阪本 絹代**

【主催】滋賀県がん診療連携協議会

構成団体

滋賀県立総合病院、滋賀医科大学医学部附属病院、大津赤十字病院、公立甲賀病院、彦根市立病院、市立長浜病院、高島市民病院、滋賀県医師会、滋賀県歯科医師会、滋賀県薬剤師会、滋賀県看護協会、滋賀県診療放射線技師会、滋賀県臨床検査技師会、滋賀県歯科衛生士会、滋賀県がん患者団体連絡協議会、滋賀県

事務局：滋賀県立総合病院 経営強化推進室 TEL：077-582-5031 (代表)



ふれあいHeart

Vol. 53 2024年12月

発行・編集／広報委員会

滋賀県立総合病院 総務課

〒524-8524 滋賀県守山市守山5-4-30 TEL 077-582-5031(代)

外来ブロック・会計への問い合わせはナビダイヤルをご利用ください

ナビダイヤル：0570-00-5031